安心して暮らせるまち“あつた”

あったか熱田区

つながりケアパス

認知症の進行に合わせた「家族の気持ち」や「ケアのポイント」

この認知症ケアパスは認知症の進行状況にあわせて、認知症の人やそのご家族などが利用できる医療・介護サービスをまとめたものです。認知症の原因となる疾患やお身体の状況などにより、経過は異なりますが、今後を見通す参考にしてください。

	健康	認知症の疑い	ひとりで生活ができる	見守りが必要	手助け・介護が必要	常に介護が必要
認知症の進行	―	• もの忘れが気になる • お金の管理や買い物、書類の作成などはひとりでできる	• もの忘れにより生活のしづらさがある • 日付や時間がわからなくなる • 買い物やお金の管理にミスがある • 日常生活はなんとか行っている	• 買い物やお金の管理ができない • 服薬管理ができない • 電話の応対や訪問者の対応が困難 • 道に迷うことがある	以下のことに手助け・介護が必要 • 着替え　• 入浴 • 食事　• 排せつ • 整容（洗面・歯みがき・化粧）	• 車椅子・ベッドでの生活が中心 • 食事をとることが困難 • 言葉による意思表示･理解が困難
本人の様子 こんなことはありませんか チェックをして進行具合を確認しましょう	―	□重要な約束を忘れる □新しい場所への旅行などが難しい	□出来事を忘れる □調理の段取りができない □小銭での支払いができない □日時が分からない □計画的な買い物ができない □意欲の低下 □もの盗られ妄想	□直前のことを忘れる □買い物ができない □季節や場所がわからない □季節にあった服が選べない □家族とのトラブル □攻撃的な言動 □昼夜逆転 □はいかい（ひとり歩き）	□着る順番が分からない □ボタンをかけられない □体がうまく洗えない □箸の使い方が分からない □トイレの失敗 □顔が洗えない □歯が磨けない	□歩行が困難 □介助にて椅子に移動 □ベッドの上での生活が中心 □言葉を話すことができない □言葉によるコミュニケーションが難しい □食事のときにむせる □肺炎
家族の気持ち		●否定、年齢のせい、言えばできるはず	●混乱　●認知症状に振り回されてしまう、自分だけがなぜ、拒絶　●介護の疲れ			●割り切り　●受容　●どう看取るのか
家族の心がまえ		• 早めにいきいき支援センターに相談しましょう。 • 認知症や介護について学ぶ機会を持ちましょう。	• 腹が立ってあたりまえ。一人で抱え込まないで、介護仲間をつくりましょう。 • 早めに介護サービスを利用して、がんばりすぎない介護を心がけましょう。 • 身近な人には認知症について伝え、理解者や協力者をつくりましょう。		• 介護者あっての介護です。まずは自分の健康を大切にしましょう。 • 施設入所をお考えの場合は、早めに情報収集をしておきましょう。 • 医師やケアマネジャーなどと相談し、人生の最終段階（終末期）のケアについて確認しておきましょう。	

裏面へ

認知症の進行	健康	認知症の疑い	ひとりで生活ができる	見守りが必要	手助け・介護が必要	常に介護が必要
	気づき～相談		介護保険の申請など	日常的な支援、行動心理症状や身体合併症への対応		重度・終末期のケア

ケアのポイント

1. かかりつけ医やいきいき支援センターに相談しましょう。
いきいき支援センターは介護や福祉、認知症のなんでも相談窓口です。

2. 介護保険を申請するなど安心した生活が送れる環境を整えましょう。

3. 薬による治療や社会参加の機会をもち、進行を予防しましょう。

4. 本人にあった生活が送れるよう、介護保険サービスを利用しましょう。地域での見守りや支えあいも大切になります。

5. 行動心理症状（ひとり歩き（はいかい）や興奮など）や身体合併症（肺炎など）の治療は、認知症疾患医療センターなどの専門医療機関で受けられます。

6. 着替え、入浴、食事、排せつなどの介護が増え、身体合併症を起こしやすくなります。穏やかに過ごせるよう、ホームヘルプや在宅での診療、看護など、医療と介護が連携したサービスが受けられます。

本人・家族を支援する主な制度やサービスなど

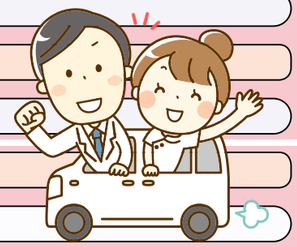
相談窓口
- いきいき支援センター
- ケアマネジャー

家族
- 家族サロン、家族教室、もの忘れ相談、認知症カフェ、認知症の人と家族の会

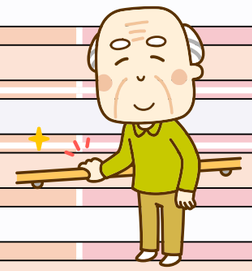
介護福祉
- ホームヘルプ・デイサービスなどの介護保険サービス
- ショートステイなどの短期宿泊サービス

「通い」を中心に「訪問やお泊りと看護」を組み合わせて提供する「小規模多機能型居宅介護や看護小規模多機能型居宅支援介護」もあります。

医療
- かかりつけ医・かかりつけ薬局 【訪問診療】
- 認知症疾患医療センターなどの専門医療機関
- 訪問看護サービス
- 歯科医師・歯科衛生士 【訪問歯科診療】

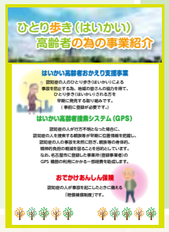


生活支援
- 地域での見守りや支えあい活動、民生委員、認知症サポーター
- 生活支援サービス、日常生活自立支援事業、成年後見制度
- はいかい高齢者おかえり支援事業・GPS・おでかけあんしん保険



予防
- 介護予防教室、趣味や特技を活かせる場、地域での交流の場、認知症カフェ、サロン

住まい
- 自宅 【福祉用具・住宅改修】
- サービス付き高齢者向け住宅など
- グループホーム
- 特別養護老人ホーム



ひとり歩き（はいかい）高齢者のための事業紹介もあります

つながり手帳もあります

ご本人の大切にしてきた“思い”が、支援する人の間で引き継がれるよう、書き込めるものになっています。
区役所、保健センター、いきいき支援センターなど窓口で配布しています。

＜いきいき支援センターの連絡先＞

熱田区いきいき支援センター ☎ 671-3195 担当学区 高蔵、旗屋、白鳥、千年
（神宮三丁目 1-15 熱田区在宅サービスセンター内）

分室 （大宝三丁目 6-26 シャンポール日比野 1 階） ☎ 682-2522 担当学区 船方、野立、大宝

熱田区いきいき支援センターHP

電話相談窓口

名古屋市認知症コールセンター	☎ 052（734）7089
愛知県認知症電話相談	☎ 0562（31）1911
若年性認知症コールセンター	☎ 0800（100）2707

認知症の早期発見、早期対応へ向けた支援を行います。

認知症初期集中支援チームの役割

認知症の人や認知症の疑いがある人が、病院の受診や介護サービス等の利用ができていない場合などに、在宅生活を継続できるよう、ご自宅にチーム員が訪問するなどして、サービス利用の動機づけや利用の調整、認知症の重症度に応じた助言、介護負担感軽減のための家族への支援等を行います。

熱田区地域包括ケア推進会議認知症専門部会　令和７年３月発行